



青 第 1 7 9 号

令和 4 年 9 月 7 日

埼玉県青少年健全育成審議会

会 長 堀 田 香 織 様

埼玉県知事 大 野 元 裕 (公印省略)

青少年に優良な図書の推奨について (諮問)

埼玉県青少年健全育成条例第 1 0 条の規定により、青少年に優良な図書として別記の図書を推奨したいので、同条例第 2 5 条第 1 項第 1 号の規定により、貴審議会の意見を求めます。

令和4年度 埼玉県推奨候補図書一覧

諮問番号	部門別	書名	著者名等	発行所	価格(税込)	出版年月	ISBNコード
1660	乳幼児	ひりびり	中新井純子/作	童心社	¥1,100	R3.6	978-4-494-00794-3
1661	乳幼児	チーターじまんのてんてんは	みやけゆま/作	B1出版	¥1,430	R3.5	978-4-7764-1001-0
1662	乳幼児	もしかして…	クリス・ホートン/作 木坂涼/訳	B1出版	¥1,760	R3.2	978-4-7764-0983-0
1663	乳幼児	ねんねん ころりん	ふじものりこ/作	世界文化社	¥1,320	R3.10	978-4-418-21819-6
1664	乳幼児	おじさんのぼうしはどこいった?	ジョアン・レ・ドセット/ぶん フリッツ・シーベル/え やすたふゆこ/やく	出版ワークス	¥1,760	R3.9	978-4-907108-88-5
1665	小学校低学年	しゅくだいがっしょう	福田岩緒/作・絵	PHP研究所	¥1,320	R3.9	978-4-569-88019-8
1666	小学校低学年	だんだん だんだん	たけがみたえ/作・絵	ひさかたチャイルド	¥1,320	R3.5	978-4-86549-245-3
1667	小学校低学年	きょうりゅうレディ さいしよの女性古生物学者 メアリー・アーニング	リンダ・スキアース/作 マルタ・アルハレス・ミゲルス/絵 まえざわあきえ/訳	出版ワークス	¥1,980	R3.6	978-4-907108-76-2
1668	小学校低学年	ちきゅうのための1じかん	ナネット・ヘフアーナン/さく ハオ・ルー/え おがわひとみ/やく	評論社	¥1,540	R3.12	978-4-569-08077-5
1669	小学校低学年	はじめての日本のれきしえほん	溝口イタル/作 山本博文/監修	パイ インターナショナル	¥1,980	R3.11	978-4-7662-4122-1
1670	小学校中学年	シェフでいこうぜ!	上條さなえ/作 磯崎圭主/絵	国土社	¥1,540	R3.7	978-4-337-33649-0
1671	小学校中学年	ピアドリクス・ポター-の物語 キノコの研究からピーター・ラビットの世界へ	リンゼイ・H・メカーフ/文 ジュン・イ・ウー/絵 長友恵子/訳	西村書店	¥1,760	R3.7	978-4-86706-027-8
1672	小学校中学年	願いがかなう自動はんばい機 シャンケン必勝でぶくろ	山口オオ/作 たかいよしかず/絵	童心社	¥1,100	R3.11	978-4-494-01748-5
1673	小学校中学年	ぼくんちのねこのはなし	いとうみく/作 相模大輔/絵	くもん出版	¥1,430	R3.12	978-4-7743-3287-1
1674	小学校中学年	二平方メートルの世界で	前田海音/文 ばたこうしろう/絵	小学館	¥1,650	R3.4	978-4-08-725104-0
1675	小学校高学年	東京タワーに住む少年	山口理/作 ふすい/絵	国土社	¥1,540	R4.3	978-4-337-33659-7
1676	小学校高学年	サマークエスト	北山千尋/作 しらこ/装画・挿絵	フレーベル館	¥1,540	R3.6	978-4-577-04979-2
1677	小学校高学年	りぼんちゃん	村上雅郎/作 早川世詩男/装画・挿絵	フレーベル館	¥1,540	R3.7	978-4-577-05000-2
1678	小学校高学年	空から見える、あの子の心	シェリー・ピアソル/作 久保陽子/訳 平澤朋子/絵	童心社	¥1,650	R3.12	978-4-494-02076-8
1679	小学校高学年	細文の狼	今井恭子/作 岩本ゼロゴ/画 堤隆/監修	くもん出版	¥1,650	R3.6	978-4-7743-3201-7
1680	中学校	そらのことばが降ってくる	高柳亮弘/作 あやのあゆ/絵	ポプラ社	¥1,540	R3.9	978-4-591-17106-6
1681	中学校	あしたの幸福	いとうみく/作 松倉香子/絵	理論社	¥1,540	R3.2	978-4-652-20417-7
1682	中学校	青いつばさ	シェフ・アールツ/作 長山さき/訳	徳間書店	¥1,760	R3.9	978-4-19-865357-6
1683	中学校	赤い糸でもむすばれた姉妹	キャロル・アソワ/文 ネット・ピーコック/作 日当陽子/訳 野田あひ/絵	フレーベル館	¥1,540	R3.10	978-4-577-04944-0
1684	中学校	「ハーフ」ってなんだろう?	下地ローレンス吉孝/著	平凡社	¥1,760	R3.4	978-4-582-83866-4
1685	高校・青年	世界でいちばん幸せな男	エディ・ジェイク/著 金原瑞人/訳	河出書房新社	¥1,562	R3.7	978-4-309-20832-9
1686	高校・青年	やさしい猫	中島京子/著	中央公論新社	¥2,090	R3.8	978-4-12-005455-6
1687	高校・青年	ペイント	イ・ヒヨソ/著 小山内園子/翻訳	イースト・プレス	¥1,650	R3.11	978-4-7816-2023-7
1688	高校・青年	空にピース	藤岡陽子/著	幻冬舎	¥1,870	R4.2	978-4-344-03910-0
1689	高校・青年	エレジーは流れない	三浦じぞん/著	双葉社	¥1,650	R3.4	978-4-575-24397-0

令和4年度埼玉県諮問図書審査票

(乳幼児)

諮問番号	図書名等	内容・選定理由	認定基準	推奨の有無
1660	<p>びりびり</p> <p>童心社</p> <p>中新井純子/作</p>	<p>【内容】</p> <p>紙をびりびり破ると何ができるのか。破り方によって出来上がるものの違いが楽しめる。</p> <p>【選定理由】</p> <p>紙の破り方によって、色々なものに変化する面白さがよく表現されている。文章は「びりびり」「による」「びよん」等、音で構成されており語感が良い。また、リズムカルな文章とメリハリのきいたシンプルな画は、読み聞かせにもぴったり。最後もにっこりする終わり方で、親子で楽しめる一冊になっている。</p>	<p>(1)エ</p> <p>(2)ア</p>	
1661	<p>チーターじまんのてんてんは</p> <p>BL出版</p> <p>みやげゆま/作</p>	<p>【内容】</p> <p>チーターがくしゃみをする、体の黒い点々が吹き飛んでしまう。そしてその点々は、色々な動物から動物へと移ってしまい…。</p> <p>【選定理由】</p> <p>発想がおもしろく、次々に移動していく点々の行方にはドキドキワクワク。文章はどこか語り掛けるようなユニークさがあり、読み手を絵本の世界へと引き込む。また、描かれている動物たちの姿は、愛嬌があり、かわいらしい。結末は思わずクスツとしてしまう展開で、現実にはない世界観を存分に楽しめるストーリーである。</p>	<p>(1)エ</p>	
1662	<p>もしかして…</p> <p>BL出版</p> <p>クリス・ホートン/作 木坂涼/訳</p>	<p>【内容】</p> <p>トラがいっぱいて危ないから近づいてはいけないと言われるマンゴーの木。食いしん坊な子ザルたちは、言いつけを破ってマンゴーの木を見に行ってしまう…。</p> <p>【選定理由】</p> <p>食いしん坊な子ザル3兄弟。危なくて近づいてはいけないマンゴーの木に、少しだけならいいんじゃない？と行ってしまう様子がユーモラスに描かれている。絵は線や色遣いが独特。森の中にさりげなくトラが描かれていたり、子ザルを食べられなかったトラがマンゴーを食べていたりと遊び心のある絵で、何度読み返しても新しい発見があつて楽しめる。</p>	<p>(1)エ</p>	
1663	<p>ねんねんころりん</p> <p>世界文化社</p> <p>ふじもとのりこ/作</p>	<p>【内容】</p> <p>猫や犬、うさぎ、赤ちゃんが眠るときの様子を、優しいタッチの絵で表現している。</p> <p>【選定理由】</p> <p>丁寧に描きこまれた絵の線から、動物の毛や赤ちゃんの肌の柔らかさが伝わってくる。眠る前のしよぼしよぼした目や気持ちよさそうに寝転がる姿は、読んでいる子供に安心感を与えてくれる1冊。</p>	<p>(1)エ</p>	
1664	<p>おじさんのぼうしはどこいった？</p> <p>出版ワークス</p> <p>ジョアン・L・ノドセット/ぶん フリッツ・シーベル/え やすだふゆこ/やく</p>	<p>【内容】</p> <p>おじさんは、自分の麦わら帽子が、大のお気に入り。ある日、強い風が吹いて、おじさんの帽子が、どこかへ飛ばされてしまいました。おじさんは、納屋や鳥小屋も探しましたが、帽子は、どこにもありません。おじさんの帽子は、どこへ行ってしまったのでしょうか。</p> <p>【選定理由】</p> <p>ストーリー展開に起承転結があり、子供にも物語のおもしろさが伝わる作品である。また、探しているぼうしが、生き物によって、「まるくてちやいろいすあな」や「まるくてちやいろいはちうえ」など見え方が違うという点もおもしろい。絵は線が独特でユーモラス。読み終えると温かい気持ちになり、安心して読み聞かせることができる。</p>	<p>(1)ア</p> <p>(2)ア</p>	

令和4年度埼玉県諮問図書審査票

(小学校低学年)

諮問番号	図書名等	内容・選定理由	認定基準	推薦の有無
1665	しゅくだいがっしょ う PHP研究所 福田岩緒/作・絵	【内容】 しゅくだいシリーズの合唱版である。誰にでも苦手なことはあり、主人公のあゆみもみんなの前で歌うことを恥ずかしく思っている小学生である。そのため、合唱の練習でも声を出さずに歌っているふりだけをしてしまう。苦手なことから一瞬逃げ出してしまう主人公の気持ちや、友だちと一緒に乗り越えていく場面に、自分のことと重ね合わせて読み進めることができる。舞台となる学級は3年生だが、ルビもついていて低学年でも一人読みできる児童も多いと感じる。 【選定理由】 主人公は、自分の苦手なことから初めは逃げているが、友達や先生の励ましを受けながら、アドバイスを生かして、自分でもいろいろと考えながら少しずつ前を向き始め、苦手な合唱を克服していく。主人公の心の動きがわかりやすい。また丁寧に描かれている。読み手である子供も主人公と一緒にできるとききしながら読むことができる。	(1)ア (3)オ	
1666	だんだん だんだん ひさかたチャイルド たけがみたえ/作・絵	【内容】 よっちゃんや夜、おじいちゃんと散歩に出かけるお話である。文章の量としては少ないが、擬音語の繰り返しを読んでいて楽しい。だんだんと暗くなっていく様子や祖父の孫に対する温かなまなざしが、具体的な表現がされていなくても感じることができる。夜の気配や生き物の気配が感じられ、余韻が残る読後感もよい。版画のイラストも内容にあっている。 【選定理由】 低学年の児童は、夜に外を歩く機会はあまりないのではないだろうか。夜になると、自分の家の周りがどのようになるのか想像して読む児童もいるかもしれない。「だんだん だんだん」が繰り返されるところに、リズム感があり楽しんで読むことができる。版画の挿絵から夜の気配や生き物の気配が感じられ、余韻が残る読後感も心地よい。	(1)イ (1)エ	
1667	きょうりゆうレディ さいしょの女性古 生物学者 メア リー・アニング 出版ワークス リンダ・スキアース/ 作 マルタ・アルパレス・ ミゲンス/絵 まえざわあきえ/訳	【内容】 200年ほど昔のイギリスの話である。子供の頃から化石を愛した一人の女性の伝記絵本。海外のタッチで独特な雰囲気があるが、差別や偏見にも負けず自分の興味のあることにまっしぐらに取り組み続けた「メアリー・アニング」の人生について描かれている。 【選定理由】 差別や偏見にも負けず、自分の興味のあることにまっしぐらに取り組み続けた1人の女性の生きる姿に心打たれる。イラストが個性的だが、内容的には子供に勇気を与えてくれるものである。恐竜を扱ったものであるため、子供たちも興味をもって読むことができるであろう。昨今のジェンダーの問題を学ぶ作品としても読むことができる。	(2)ア (3)ア (3)エ	
1668	ちきゅうのための1 じかん 評論社 ナネット・ヘファーナン/ さく パオ・ルー/え おがわひとみ/やく	【内容】 私達の今の生活を存続させるために、一年に一度春分の日に近い土曜日の午後8時30分から1時間、明かりを消す「アースアワー」の取り組みを紹介した作品。地球温暖化の問題を考えるきっかけとしても読みやすい。各都市の様子や絵なども、とても魅力的に描かれている。学級での、SDGsの取り組みを考えるきっかけづくりにもなる本である。 【選定理由】 SDGsの話題が多く取り上げられている中で、「アースアワー」という取組を知ったり、環境問題や地球温暖化の問題について目を向けるきっかけになる。また、世界中の都市の様子も、魅力的な絵で描かれている。「自分も取り組んでみたい」と児童が考える契機となることを期待したい。	(1)ウ (3)ア (3)ウ	
1669	はじめての日本の れきしえほん パイ インターナショナル 溝口イタル/作 山本博文/監修	【内容】 日本の歴史の流れが、細かく丁寧なイラストを中心に描かれている。何回も繰り返し眺め、読むことで新しい発見ができる本。様々な日本の伝統文化にも触れられているので、知識を得るのにも良い。全体的な色使いもよい。低学年から大人まで、どの年代でも楽しく読める本である。 【選定理由】 家・服装・食べ物・暮らしなど、日本の変化が一目で分かる一冊である。縄文から令和まで、時代を象徴する風景と人々の暮らしや流行が紹介されている。眺めても楽しめる図鑑のような絵本。すべてカラーで、イラストも一つ一つ細かく描きこまれている。低学年で、社会(特に日本史)につながっていく本はあまりなかったが、この本は漢字にルビがついていて一人で楽しめるだけでなく、大人と気づいたことを話しながら一緒に読むことができる一冊である。	(3)イ (4)ア	

令和4年度埼玉県諮問図書審査票

(小学校中学年)

諮問番号	図書名等	内容・選定理由	認定基準	推薦の有無
1670	シェフでいこうぜ！ 国土社 上條さなえ/作 磯崎圭/絵	【内容】 主人公は、埼玉県出身の母をもつ小学四年生の男子。心の病になってしまった父を元気づけるために父の思い出の味である沖縄料理の「てびち」づくりに挑戦する。何度も失敗を重ねながらも、その都度調整をしながら納得のいく「てびち」をつくりあげることができた。フィクションでありながら、地名や会社名など聞き覚えのある名称がでてきたり、主人公も身近に感じられることから物語に共感して読みやすい一冊。 【選定理由】 話の中に「埼玉」という言葉が出てくるので、読み手が本に寄り添いやすい。また、「コロナ」など、時事的要素も入っており今子供達が進むのに適している。心の病を患った父を励ますために父の好物である沖縄料理「てびち」づくりに挑戦するが、なかなか思うような味に仕上がらない。中学年なりに試行錯誤しながら「てびち」を作り続ける姿や、父の故郷沖縄について知り家族愛を深める姿に心を動かされる。	(1)ア (2)ア (3)イ	
1671	ビートルクス・ポター の物語 キノコ の研究からピー ター・ラビットの世 界へ 西村書店 リンゼイ・H・メカー フ/文 ジュン・ウー/絵 長友恵子/訳	【内容】 ピーターラビットの作者として有名なビートルクス・ポターの伝記的な絵本。ビートルクスの成長をすぐ近くで観ているような視点で描かれている。女性がまだ学問の世界で認められていなかった時代でも彼女が興味をもったことへ熱意をもって研究をしたことが分かる作品。その研究の積み重ねが、ピーターラビットの絵本へとつながっていることが分かる一冊。 【選定理由】 ピーターラビットを知る人は一度は耳にしたことはある「ビートルクス・ポター」の名前。絵本作家として有名だが、実は、生き物と自然が好きだったことはあまり知られていない。女性差別の時代に生まれ育った中でも、研究への熱意をもちつづける自分の好きなことを貫き通した彼女の姿は、読者へ勇気と前向きな気持ちを与えるだろう。また、伝記を絵本で触れることができるので、中学年児童に対する伝記への読書導入にもなる。	(2)イ (3)ア (3)ウ	
1672	願いがかなう自動 はんばいき ジャン ケン必勝てぶくろ 童心社 山口タオ/作 たかいよしかず/絵	【内容】 「こうなりたい！」という願いをもつ子供の前に現れる「願いが叶う自動はんばいき」。自動販売機で願い通りのものを手に入れ自分の得のために使い始めるものの、使用しているうちに、正しい選択や人のためにその商品を使うように変容していく。読み手の視野をすこし広げてくれるような作品。 【選定理由】 「願いがかなう自動はんばいき」には、子供たちが「あったらいいな」と思うもののばかりがそろっていて、「こんなことができればいいな」という気持ちを実現させてくれる物語。三つの短編は、一つ一つが読みやすい分量になっている。また、自分の得のために使い続けるのではなく、使い方について立ち止まって考えたり、思い通りにいかないことから考えたり、人のために使ったり、ただ「願いが叶う」だけではないところに物語のおもしろさがある。	(1)ア (2)ア	
1673	ぼくんちのねこの はなし くもん出版 いとうみく/作 祖敷大輔/絵	【内容】 一真の家で買っている猫の「ことら」は16歳。少し前まですごいたずらだったのに、最近は部屋に来てベッドの上で丸くなって眠るばかり。えさを食べなくなり腎不全だと診断された「ことら」はどんどん弱っていき……。ペットを家族の一員だと大切に思う気持ちと診察料や治療の難しさに悩む気持ちが現実的で物語に深みを出している。「ことら」をめぐるそれぞれの思いに、改めて命について考えさせられる。 【選定理由】 家で生き物を飼っている人は多い。飼ってなくても一度は「生き物を飼いたい」と思った子供も少なくはない。この本はただ「ペットはかわいい」だけで終わらず、ペットも人間と同じように歳をとり、体が弱くなり動けなくなる中で、「金銭面」「延命か死か」「家族愛」など様々な面で葛藤する飼い主家族の様子が描かれている。ペットという身近な命の存在について子供なりに改めて考える機会となる一冊になる。	(1)ア (1)イ	
1674	二平方メートルの 世界で 小学館 前田海音/文 はたこうしろう/絵	【内容】 子どもノンフィクション文学賞(小学生の部)で大賞を受賞した作品を元にした絵本。小学3年生の海音は病気を抱えて入院を繰り返していた。入院中はベッドの上の二平方メートルが世界の全て。不安や恐怖を感じながら過ごす中で、ある日、海音はベッドのオーバーテーブルの裏にたくさんの寄せ書きのようなものを見つけ……。病気と向き合う主人公の思いが伝わり苦しくもあるが、強く生きていこうという強い思いが胸に響く。 【選定理由】 当時小学3年生だった札幌の小学生が書いた作品を元にしたノンフィクションの物語。病気と向き合う中で感じる孤独感や家族に対する思い、奇跡を願う気持ちなどが本物の言葉として届くため、読んでいて苦しい部分もあるが、オーバーテーブルの裏のメッセージを見つけた後の強い思いが胸を打つ。病気が治ったわけではなく、翌年にはまた長期入院が控えている。それでも前向きに、大切に生きていきたいという思いが胸に響く物語である。	(1)イ (2)イ (3)エ	

令和4年度埼玉県諮問図書審査票

(小学校高学年)

諮問番号	図書名等	内容・選定理由	認定基準	推薦の有無
1675	東京タワーに住む少年 国土社 山口理/作 ふすい/絵	【内容】 科学が大好きな小学校6年生の健人の成長物語。東京タワーに虹をかけるという夢を実現させるために独自で研究を続ける健人は「研究は一人ですることには意義がある」と考えていた。しかし周りの人との関わりの中で、共同することの価値、人は誰かに支えられて生きているということに気づき、頑なな祖父と父の心を変えていく。秘密の研究、秘密の場所、現実離れしているが実現できるかもしれないと思わせる期待感等、読者をひきつける。 【選定理由】 夢の実現に向けて努力を続けることの素晴らしさや、一人ではなく仲間と協力して研究することの良さに気づくことができる。夢の実現は大変難しそうだが、もしかしたらできるかもしれないという期待感をもって、登場人物に寄り添いながら読むことができる。東京タワーに秘密の部屋があり、研究者が今もそこで研究を続けているなんて、フィクションだが「あるのかもしれない」と思わせる設定も魅力の一つである。	(1)ウ (2)イ	
1676	サマークエスト フレーベル館 北山千尋/作 しらこ/装画・挿絵	【内容】 ひと夏の冒険。2歳の時に海で父親を亡くしたヒロキは、父親のことをほとんど知らない。知りたいけれど、そばにいる大人には聞いてはいけない空気を感じる。ずっと誰にも聞けなかった父の死の真相を確かめるために、冒険の旅に出る。主人公や取り巻く大人たちの繊細な気持ちが手に取るように伝わり、読んでいて応援したくなる物語。自分も主人公と一緒に冒険の旅に出ている気持ちになれる一冊。 【選定理由】 父の死の真相を知るために一人で冒険に出かけたヒロキの成長と一緒に感じることができ、読後爽快感を味わうことができる。旅をきっかけに一回り成長したヒロキが、母や周りの大人たちの悲しみを理解しながらも、大人たちの心も明るく前向きに変えていくこともまた、この物語の魅力の一つである。ヒロキや周りの大人たちの繊細な気持ちを感じながら読んでもらいたい。	(1)イ (2)ア	
1677	りぼんちゃん フレーベル館 村上雅郁/作 早川世詩男/装画・挿絵	【内容】 家族や友人から子供扱いされている朱理。仲良くなった転校生の友達は家庭の問題を抱えていた。大変嫌な思いをしているものの誰にも助けを求めることができず、周りもその苦しさ気づいてあげられない。その繊細な気持ちを丁寧に描写している。そんな中、苦しんでいる友達を助けようと必死に行動する朱理。友達のために勇気をもって立ち上がろうとする朱理を応援しながら、いろいろと考えさせられる一冊。 【選定理由】 児童虐待といえるか判断に迷うような、「誰にもわかるダメな事」ではない場合、被害者は訴えることをあきらめて我慢してしまいがちで、周りの人も気づきにくい。気づいたところで、どうやって救ってあげればよいかわからない。そうやって、苦しんでいる人は見えないところで苦しみを続ける。でも朱理のように、必死に声を上げれば救うことができるのだ。人の苦しみに気づいてあげられる優しさや、声を上げる勇気を、この本から学んでもらえたらいいと思う。	(1)ア (2)ア (2)イ	
1678	空から見える、あの子の心 童心社 シェリー・ピアソル/作 久保陽子/訳 平澤朋子/絵	【内容】 いつもひとりぼっちで不思議な行動ばかりするジョーイ。ジョーイのことをずっと見ていたエイプリルは、彼の素敵な秘密を発見する。だれかがだれかに真剣に向き合う時、そこには素晴らしい物語が生まれていく。偏った情報で判断するのではなく、物事をよく見て深く知ろうとしてほしい。見えないところにその人の良さが隠れているかもしれない。人との付き合い方、ものの見方について深く考えさせられる本。 【選定理由】 何事も、知らないことに人は敬遠しがちだが、深く知れば世界が広がる。物の見方は一方向からだけではわからない。様々な角度から物事を見ることや深く知ることの大切さに気づかされた。また、人によって幸せだと感じる物差しは異なる。観客の前で巨大絵を描くことや有名になり持て囃されることはジョーイにとって幸せなのか、自分なりの答えを見つけてほしい。	(1)ア (2)イ (3)エ	
1679	縄文の狼 くもん出版 今井恭子/作 岩本ゼロゴ/画 堤 隆/監修	【内容】 赤ちゃんの時に狼にさらわれ、育てられたことのある少年キセキ。命の危険と隣り合わせの生活で、どうなってしまうのだろう?!とハラハラドキドキするような困難にたくさん遭遇するが、キセキと狼の深い絆で乗り越えていく感動の冒険物語。狼がすぐそこにいるような感覚になれる丁寧な文章表現で、情景が鮮やかに目に浮んでくる。縄文時代の暮らしぶりもよく描写されている。 【選定理由】 人間と狼でも、共に育つと家族のような絆が生まれる。少年キセキと狼オオアシそしてその子供の狼犬ツナグとの強い絆で様々な困難を乗り越える冒険物語。どうなるのか先が心配で、一息で読みたくなる作品である。一つひとつ困難を乗り越える度にほっと胸をなで下ろし、キセキとオオアシ、キセキとツナグの絆の深まりと、キセキの成長を感じる。狼の行動やしぐさから存在が見えるような描写と、縄文時代の生活様式を感じられるのもこの本の魅力である。	(1)イ (2)イ	

令和4年度埼玉県諮問図書審査票

(中学生)

諮問番号	図書名等	内容・選定理由	認定基準	推薦の有無
1680	<p>そのことばが降ってくる</p> <p>ポプラ社</p> <p>高柳克弘/作 あやのあゆ/絵</p>	<p>【内容】 いじめをきっかけに保健室登校をしていた主人公のソラ。そこで俳句が大好きなハセオと出会い、その威勢の良さに戸惑いながらも俳句の魅力に引き込まれていく。保健室の北村先生と弓道部部長のユミも加わり、ヒマワリ句会が開催されるようになる。言葉によって傷つけられた経験をもつ三人が、保健室で句会をしながら人とのつながりを回復していく。そして、いつしか学校全体も巻き込んでいく物語。</p> <p>【選定理由】 顔のホクロにコンプレックスを持つ主人公が俳句によって変わっていくところに読みごたえがある。主人公のみならず、登場する人物それぞれが悩みを抱えていて心の変化の機微を読むことができるため、読者の年齢層とも合っている。作者は俳人でもあり、作中の俳句にも説得力がある。</p>	(1)ア (1)エ (3)ア	
1681	<p>あしたの幸福</p> <p>理論社</p> <p>いとうみく/作 松倉香子/絵</p>	<p>【内容】 父子家庭で中2の「雨音」が主人公。父と二人暮らしだったが、その父が交通事故で死んでしまう。幼い頃、雨音を置いて家を出ていった母と住むことになるが、再婚予定であった父の恋人が妊娠していることがわかり、3人での暮らしが始まる。父の死によって、主人公が父やその恋人だけでなく産みの母からも愛を受けていたことに気づき、もっと母を理解していきたいと思いはめる物語。</p> <p>【選定理由】 複雑な家族関係を通して、家族とは何か、人と人とのつながりとは何かを考えさせる。</p>	(2)イ (3)エ	
1682	<p>青いつばさ</p> <p>徳間書店</p> <p>シェフ・アールツ/作 長山さき/訳</p>	<p>【内容】 知的障害のある兄を支える少年が主人公。群れとはぐれた鶴の子供を飼いはじめますが、兄が施設に預けられると知って、二人でこの鶴を南の国に返しに行くためトラクターで旅に出る。ことあるごとに癪癪をおこす兄だが、それに対処する弟の様子は兄弟のきずなが深い証拠にも見える。読みごたえがあり、読後感も良い。</p> <p>【選定理由】 障害のある兄と、彼を愛情をもって支える弟の物語で、兄弟の絆がテーマとなるとともに、様々な境遇の人と共に暮らすことの大切さも訴えている。</p>	(1)ア (3)エ	
1683	<p>赤い糸でむすばれた姉妹</p> <p>フレーベル館</p> <p>キャロル・アントワ ネット・ピーコック/作 日当陽子/訳 野田あい/絵</p>	<p>【内容】 中国の養護施設で、姉妹同然に育った二人。ひとりがアメリカの里親に恵まれ出ていくことになり、自分だけが幸せになることに罪悪感を感じていた。なじみのない設定だが、主人公の心情の変化を細やかに描写しており、ハッピーエンドなのも読後感が良い。</p> <p>【選定理由】 養護施設で一緒だった親友を思うばかりに、新しい家族になかなか心を開くことができない主人公の姿が切ない。しかし、運命の人とつながる「赤い糸」が一つでないことに気づくことで、主人公は他者への思いやりを学ぶことができるようになる。それまでの心情の変化を細やかに描写している。</p>	(1)ア (2)イ	
1684	<p>「ハーフ」ってなんだろう？</p> <p>平凡社</p> <p>下地ローレンス吉孝/著</p>	<p>【内容】 インタビューや手記など、多くの体験談が掲載されていて、「ハーフ」と呼ばれる人がどのような体験をし、どのように感じているのかを教えてくれる本。本文部分是对話形式で書かれていて、はじめはとっつきにくいですが、慣れれば読みやすい。トラブルやつらいエピソードも多いが、それを無理に読まなくても大丈夫、という配慮も「はじめに」で案内されていて、行き届いた本だと感じる。物語ではないが、推奨したい。</p> <p>【選定理由】 「ハーフ」で片づけられてしまう出自の問題を、様々な証言をもとに多角的に紹介している。差別を受けた経験のある方々の証言から、その時の思いやその困難をどのように乗り越えてきたかを受けとめるとともに、自分とは違う他者を思いやる心の大切さを感じることができる。</p>	(3)ウ (3)エ	

令和4年度埼玉県諮問図書審査票

(高校・青年)

諮問番号	図書名等	内容・選定理由	認定基準	推奨の有無
1685	世界でいちばん幸せな男 河出書房新社 エディ・ジェイク/著 金原瑞人/訳	<p>【内容】 強制収容所に送られながらも、人間としてのモラルと幸せへの希望を保ち続けた101歳の著者が人生を語る。強制収容所を体験していなければその過酷さを本当には理解できないという言葉が沁みた。だがそれは突き放す意図ではなく、記憶すること、過去を無かったことにしないことを促す言葉である。虐殺や戦争について、絶対にその事実を許す社会にはしてはならないと実感する本。</p> <p>【選定理由】 ホロコースト生存者が当時を振り返り「生きることへの希望」と「幸せ」について語ったノンフィクションであり、ロシア軍によるウクライナ侵攻が起きている今読むことに意義があると判断したため選定した。正しさの追求ではなく、生命の大切さや倫理、正義といったものについて考えるときの手掛かりにしてほしい一冊である。</p>	(1)ア (1)イ (3)エ	
1686	やさしい猫 中央公論新社 中島京子/著	<p>【内容】 人間を人間として見ないことへの怒りが伝わってくる。入国管理局(入管)における外国籍の人への非人道的な扱いを、収容された当事者の日本人家族目線で語る。ニュースになっても知らない、そもそもニュースになっていることすら知らないでいられるなど、マジョリティ側の無関心さを突き刺すが、家族や友人、弁護士などみんなで力を合わせて困難を乗り越える物語に希望も感じられる。主人公が高校生であることも推奨図書として適している。</p> <p>【選定理由】 高校生の目線で書かれていてやさしい文章。しかし、入管法に翻弄される外国籍の人らへの対応を見つめる目はまさに人間としての在り方、生き方を考えさせるものだと思う。それぞれの人が持つバックグラウンドを理解し尊重し合える世界を意識するきっかけになるのではないかと思われる。</p>	(2)イ (3)エ	
1687	ペイント イースト・プレス イ・ヒョン/著 小山内園子/翻訳	<p>【内容】 事情により親が子供を育てることを望まない場合、国が預かり育て、子供の自我が育った後に、親を選ぶことができる近未来が設定のフィクション。もし子供が親を選べたとしたら、あなたは選ばれる存在でいられるだろうか？そして選ぶ基準はなんだろうか？親を選べる子供ははたして幸せなのか？と現実を考えさせられる。内容は決して軽くはないが、とても読みやすい。読んでよかったと思えた。</p> <p>【選定理由】 主人公が高校生年代であることや、それに関わる大人のことも細かに描写していることから、高校生・青年が読むのに適していると判断した。また、本書内容が、血縁関係のある、ないに関わらず家族について深く考えさせるものであり、青少年の健全育成に特に役立つものと評価し選定した。</p>	(2)イ (4)ア	
1688	空にピース 幻冬舎 藤岡陽子/著	<p>【内容】 公立小学校教諭になって5年目の主人公と現代の子供を取り巻く環境から生じる問題を抱える子供たちの話。子供たち自身が簡単に解決できるような問題ではないにも関わらず、子供らが自分たちなりに問題と向き合っている姿がよい。昔の自分の経験から子供に寄り添いたいと奮闘する主人公が魅力的な作品。</p> <p>【選定理由】 小学校教諭が自分の経験から得た信念を貫き、時に迷いながらも子供たちに寄り添う姿が美しい。子供を取り巻く様々な現代的要因が子供や大人たちを惑わすが、子供たちは自分なりの力で境遇を受けとめ前向きに切り開いていく。読後感がよく、いろいろな境遇の子がいることを理解でき、共生意識を高められると考え、推奨図書に値するとし選定した。</p>	(1)ウ (3)エ	
1689	エレジーは流れない 双葉社 三浦しをん/著	<p>【内容】 高校生が主役。高校生にありがちな進路という漠然とした考え事を発端に、どうして自分に二人母がいるのか、明らかになっていく。湿っぽさはほとんどなく、明るくたくましい友人たちとのやりとりがメインである。話のテンポがよく、とても読みやすい。高校生向きであり、大人が読んでも破綻を感じさせない物語。</p> <p>【選定理由】 読みやすく、平易な表現でありながら引き込まれていく文体と、爽やかな読後感が推薦するに値すると判断したため選定した。生い立ちに複雑さはあるものの、悩みながらも前向きに生きる主人公の姿が特に高校生向けの小説としてふさわしいと感じた。</p>	(1)ア (2)イ	